

2021年度事業計画書（案）

NPO法人 CIL ひこうせん

理事長 杉浦 英俊

電話番号 048-555-1100

1. 事業実施方針

2021年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルスに対して感染予防、感染対策を行い、ひこうせんのメンバー、職員、アシスタントが懸命になって感染者を出さないように努めていきます。いままでは皆様のご協力のおかげで一人も、感染者を出していません。このことは、ひこうせんの結束力の賜物です。まだまだ、状況は予断を許しませんが、いちにちでも早く多くの人々がひこうせんに楽しく集えるよう、望んでいます。

ひこうせんの目的「誰もが自分の夢を実現できる社会」「一人でも多くの地域で自立生活を送る障がい者の自立支援」の達成は、政府が提唱する「新しい日常」では避けなければならない濃厚接触抜きには成り立ちません。誰一人、感染者を出さないように日常業務を遂行しながら、少しでも被害を出さないよう全員で、今後もここを合わせて無事に送れるよう努めましょう。

新型コロナウイルスの状況はわかりませんが国や県のウイルス対策に従いながら、できるだけ「誰もが自分の夢を実現できる社会」「一人でも多くの地域で自立生活を送る障がい者の自立支援」に取り組んでいきます。

各事業の実施方針は次のとおりです。

① 自立生活支援事業

自立を目指す当事者に対し、的確に対応し、地域で自立生活を送る障がい者を支援していきます。自立生活について理解を深め、意欲を高められるように「ILP」（ミニILPを含む）や「ピアカウンセリング」「虐待防止研修」「HOP」などを実施する予定です。（コロナウイルス対策により実施を検討の場合もある）

自立相談室「キムヒロ」は、今年度も引き続き、相談者及び家族の自立や一般就労等の希望を実現できるように支援を行う。また、相談者本人の希望が実現できるように意思決定支援の方法等についても検討を関係者等と行い、相談員の人材育成にも取り組む。

また今年度から

「文学・歴史・美術・現代社会・人の品格等の知識や教養を高める」障がい者問わず誰でもが学べるサロン[ILP with salon ミネルヴァ] (月に1回の予定)を始めます。

② 介助派遣及び移送サービス

新型コロナウイルス感染対策を最優先としながら、確実に障がい者の自立生活を支援できるよう万全の体制をとります。アシスタントのスムーズな派遣、アシスタントの技術や対応の改善・指導の実施、現場の課題の把握、問題の解決、アシスタント不足の解消に努めます。

③ 障がい者・高齢者及び児童の権利擁護活動

新型コロナウイルス感染対策の3密を回避する形での虐待防止研修の実施を検討し、虐待防止に取り組みます。

④ 福祉、教育、まちづくりへの啓発・提言事業

福祉の店「きゃんぱす」の運営など市内障がい者団体と協働して、福祉施策の促進を図ります。ふれあいまつり、スポーツレクリエーションなどの催しに参加し、市内福祉団体との連携・交流を深めます。まちづくりでは、行田市公益活動推進委員会に引き続き参加し、積極的に街づくりに提言を行います。忍町アートギャラリーは市民が楽しく参加できるイベントとなるよう、行田の市街地をアート化するための活動を行います。

⑤ 障がい者児福祉サービス事業

就労継続支援B型、生活介護、自立訓練とサービスの種別による取り組みの違いを利用者のニーズに合わせ、今まで以上に明確にしていきます。入浴サービスや機能訓練・生活訓練など必要なプログラムの確立、自前の厨房による昼食の提供を引き続き実施します。メンバーの工賃アップや訓練として、アート作品やクラフト製品の制作、カフェの経営、内職の受注、リサイクル事業などを引き続き実施してい

きます。4月1日に開所した生活介護「アンフィニ」では、利用者の作業をパソコン作業に特化し、生活のクオリティを高めると同時に収益化を図ります。併設されたショートステイ「ルポ」では、緊急時に宿泊して過ごせるよう、できるだけ多くの方にご利用いただくよう支援します。「こころ」の建て替え、耐震化に取り組みます。

3カ所の日中活動の拠点の総力を挙げて、就労支援A型事業所の設立にむけて収益性を重視する事業の開発を実施します。

「amp かわいいサミット」は八木橋百貨店様の多大なるご協力をおもちゃまして、新型コロナウイルス感染対策を実施しながら、今年度は販売と展示のみに限定して、開催できることとなりました。

共同生活援助・絆では多様な入居者の要望にできるだけ対応しながら、安全・安心に生活が続けられるように取り組みます。世話人会議を月1回開催し、ホームで生起する諸問題の解決を図ります。

⑥ 児童福祉法に規定する児童発達支援事業および放課後等デイサービス事業

放課後等デイサービス事業「ぴーす」は、日中活動の「自立訓練」とも連携しながら自立に向けた個人支援計画を作成し、療育を行うとともに自立を見据えたひこうせん独自の日常活動プログラムの確立をめざします。

⑦ 広報活動としてひこうせん通信を引き続き年12回発行し、ホームページやフェイスブック、ブログ、Youtubeなどを使った広報活動に取り組みます。

多人数が集まるイベントに関しては感染症対策を踏まえてその都度規格の見直しや変更を行っていきます。